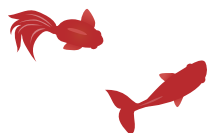


きょうちくとう

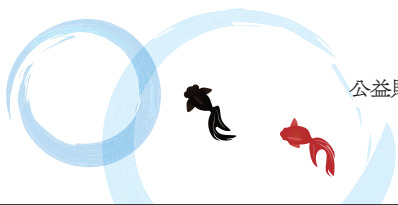
夾竹桃

Zikei ♥ Hospital 2018



Contents

- p2 理事長就任のごあいさつ
- p3 メンタルヘルス講座 認知症の人の歴史 ～過去から未来へ～
- p4 病棟紹介 西5病棟
- p6 子ども・青年期のこころの支援と治療のための外来を立ち上げました ～青年期外来のご案内～
- p7 慈圭病院 夏まつり
シリーズ発達障害③



公益財団法人慈圭会 慈圭病院
Oleander ♥ Summer 2018



「新しい時代の地域のこころの病院をめざして！」

理事長就任のごあいさつ

理事長・院長
堀井 茂 男



私たちの慈圭病院は、1952年9月3日創立され、今年で66周年を迎えました。「わが子でも安心して任すことのできる精神科病院」として、これまで、時代に先駆けて開かれた病院としての活動を積極的に推進してきました。たとえば、病棟の開放化、家族会・患者会の設立とその活発な運営、デイケア設置、就労促進などのリハビリテーション、地域との繋がりを大切にしての積極的地域移行・アウトリーチ、より効果的な先進的治療の導入など数々の努力をしてきています。

慈圭病院は岡山の、中国四国の、そして日本の中でも有数の精神科病院として築き上げられてきています。それは、日本産の材料にこだわった給食など患者さまの生活を大切に考えた、質実剛健たる伊原重彦初代理事長、患者さまの気持ちを大切にされ、人間禅でも「君、驚きたまえ！」と感性を重視された大重彌吉二代目理事長、開放化の推進、家族会を育てた藤田英彦三代目理事長のもと、職種を問わず全職員が一丸となって患者・家族のために努力してきた、この歴史にあるのです。その歴史を担ってこられた藤田英彦理事長が退任され、今年度名誉理事長になりました。そして、これまで以上に慈圭病院医療の充実、発展を目指し、新しい理事会がこの度編成されました。その構成は、堀井が理事長に就任し、武田俊彦副理事長、村上基幸常務理事、その他7理事、それを支える評議員会です。私たちの理事会、評議員全員が責任のある慈圭病院の運営を担っていくことになり、身の引き締まる思いがしています。

また、今年から、青木省三川崎医科大学名誉教授（当院理事）を研究所長に迎え、青年期外来が始まりました。鷺田健二病棟医長を中心にして若いエネルギーが当院の柱の一つになります。地域に根ざした、ことわらない病院をめざした、新しい慈圭病院が始まっています。さらに充実した慈圭病院を建設していくために、温故知新を大切にしながら、職種を問わず、私たち全員が一つのチームとなって一步一步前進したいと思っています。これまでに引き続き、皆様のご協力、応援をよろしくお願いいたします。

認知症の人の歴史 （過去から未来へ）

認知症の人はどう見られてきたか

源氏物語には「ほけ」という表現が使われています。平安時代の平均寿命（主に貴族）は30歳前後と言われ、長寿の人は数少なかったので、認知症になる人も稀だったと思われます。江戸時代には、老耄（ろうもう）という言葉が使われていました。近代になり私達の寿命が延びることで、認知症になるリスクも高まり、認知症はごく身近な病気になったのです。偏見や差別の歴史を振り返り、2004年に「痴呆」から「認知症」と呼ばれるようになりました。

認知症の原因と治療

アルツハイマー病が報告されたのは1906年のことで、110年以上経っています。その後、認知症の原因は数多く見つかりましたが、アルツハイマー病は認知症の約半数を占めています。アルツハイマー病で脳内の神経伝達物質の一つであるアセチルコリンが減少していることがわかり、補充療法としての治療薬（ドネペジルなど）が1999年以降使用できたのは良かったのですが、根本的な治療薬はまだ研究中で、期待される結果は報告されていません。

認知症の人はどこでくらしてきたか

これまでも様々な認知症対策がありましたが、認知症の人の増加スピードに遅れないように対策が取られなくてはなりません。単身者や老々介護の人が増えており、2000年以降、中等度までの認知症の人のためにグループホームや有料老人ホームが増えました。2015年の新オレンジプランでは、「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現」をすることが政策の目標となりました。そのための工夫が必要ですが、まず皆さんが認知症についてよく知り、自分のことと認識し、家族や自分が認知症になったときの備えをしておく必要があると思います。

未来は共生の時代

予防も治療も効果が十分でないとすれば、認知症と共に暮らせる社会を実現する必要があります。認知症と生きる社会、認知症でも大丈夫な社会を作らなければなりません。「当事者が何を考えているのか」「自分だったらどうするのか」という視点も大切です。市民全員が認知症サポーターになって共に暮らす社会を作りましょう。

副院長 石津秀樹 [2018年4月7日開催]



スウェーデンのグループホーム(1998年)

スウェーデンでは認知症の高齢者のうち45%が一人暮らしです。最大の理由は、認知症が悪化していないからだそうです。



西5病棟 精神一般病棟〔男性閉鎖〕

西館5階にある男性の閉鎖病棟で個室6部屋、より細やかなかわりと観察のできる個室2部屋、多床室9部屋があり病床数は55床です。統合失調症や感情障害の回復期から慢性期の患者さまが療養しています。



ホール掲示物(アジサイの貼り絵)

病棟スタッフは医師2名、看護師21名、介護福祉士2名、看護助手4名、精神保健福祉士1名、作業療法士2名で構成されています。スタッフは職種それぞれの強みを活かして、患者さまの回復や今後の生活がよりよくなることを目指して、チーム医療を行っています。そして、病状に合わせて療養環境を調整し患者さま一人ひとりが安心して入院生活が送れるように日々努めています。

チームカンファレンス

毎週水曜日に病棟スタッフ、薬剤師、管理栄養士、臨床心理士が参加してチームカンファレンスを実施し、多職種が日々のかかわりの中から患者さまの今後について情報を共有し、目標に向けた取り組みを行っています。



カンファレンス風景

力を入れている取り組み

①個別性を考えたかわり

患者さまと病院敷地内へ散歩に出たり、病棟外のベンチでおやつを食べたり、外の芝生でキャッチボールをしたり、作業療法棟へ行きDVD鑑賞など、個々にあわせた活動を行っています。また、担当スタッフが患者さまの希望に沿って



浦安荘外泊迎え

自宅や墓参りへ行ったり、図書館への院外外出や買い物、施設入所へ向けて積極的な外泊体験も行っています。

②小グループ活動

毎月1回患者さま数名からなる小グループ活動として看護師、作業療法士、精神保健福祉士、介護福祉士、看護助手が担当となり社会体験を通してQOLの向上、生活技能の向上を目的に外食や買い物、施設見学、観光地、カラオケなど様々な行き先を計画し外出を行っています。これらの活動を通してみられる患者さまの笑顔や新たな一面の発見は私たちスタッフの活力にもなっています。

小グループ活動年間計画		
月	〈小グループ〉	〈行事〉
4月	コンビニエンスストア買物	春のバスレクリエーション①
5月		春のバスレクリエーション②
6月	食事+衣料品買物	
7月	体力測定	
8月	カラオケ	
9月	ショッピング	
10月	施設見学	秋のバスレクリエーション①
11月		秋のバスレクリエーション②
12月	カラオケ	
1月	機能回復訓練室・軽スポーツ	初詣①
2月		初詣②
3月	喫茶店への外出	

患者さま一人ひとりと目線を合わせ、 共に前を向いて進んでいくことのできる病棟

憩いの空間

病棟の特徴である東西の中庭には、季節の花や緑がスタッフと患者さまの手で植えられています。きれいな花々は目にする人たちの気持ちを和ませています。また、患者さまの希望時には中庭を開放し、外の空気に触れながら花への水やりを楽しんだり、ベンチに座って自分の時間を楽しんだり開放的な時間を過ごすことができる憩いの空間となっています。

月2回作業療法士により病棟内で開かれる「なごみ(カフェ)タイム」は患者さまとスタッフがテーブルを囲みコーヒーや紅茶を飲みながらゆっくり話をすることができ、しぜんに笑顔になれる癒しの時間になっています。



なごみ(カフェ)タイム



中庭



私たちは患者さま自身が将来について考えたり達成すべき目標について考えていくことができるように、これからも患者さま一人ひとりと目線を合わせ、共に前を向いて進んでいくことのできる病棟として取り組みを続けていきます。

～ 青年期外来のご案内～

10代の後半から20代にかけての青年期は、身体も心も大きく変化し、子どもから大人へと向かう大切な時期です。この時期に、子ども（青年）たちは、友人や仲間との繋がりを築き、少しずつ親から離れ、自立・独立をはじめます。自分らしさや自分らしい生き方を模索し、生きる意味を考える時期でもあります。また、身体的な変化（第二性徴）を受け入れることも大切になります。

それと同時に、学校や職場での人間関係でのトラブルや挫折など、さまざまな人生のできごとに反応するように、心身が不安定になりやすい時期でもあります。

青年期には、人と交わることに強い不安や緊張を感じる社交不安障害（対人恐怖）、過度のダイエットや過食などの摂食障害、適応障害やうつ病・双極性障害、青年期に発症

しやすい統合失調症、発達障害をもった子ども（青年）にストレスが加わって起こる反応性の精神症状など、さまざまな精神疾患が起こりやすいものです。

そのため、支援や治療においては、心に働きかける精神療法、適切な薬物療法、個々に合わせた作業療法、環境の調整など、多角的なアプローチが必要となります。

当院の青年期外来では、精神疾患をもつ子ども（青年）とご家族に、精神科医を中心に、心理士、精神保健福祉士、作業療法士、看護師などの多職種のスタッフが「チーム」として関わることを考えています。精神科医の診察を中心に、心理面接や心理検査、就労相談、作業療法など、個々の子ども（青年）に応じた支援を行っています。

診療時間

毎週木曜日 午後（完全予約制）

対象年齢

15歳から29歳までの方を対象としています。

担当医師

青木省三、鷺田健二、平岡陽子、和辻大樹、吉村優作、北野絵莉子、松下貴紀、安東裕摩、赤穂千尋

担当する主治医は、青年期外来チームで決めさせていただきます。指定はできません。



まずはお電話でご相談ください。

問い合わせ先

TEL 086-262-1191（医療福祉相談相談窓口）
月～金 8:30～17:30（祝日・年末年始を除く）

夏まつり

みんなにありがとう!

アイスの
無料配布
あります

小さな
打ち上げ
花火大会

雨天決行

雨天時は養浩館3Fの
体育館で実施します

平成30年

8月21日(火)



ステージイベント(予定)

- ★18:30～ 吹奏楽演奏
「慈圭病院吹奏楽部」
「興陽高校吹奏楽部」
- ★19:00～ ハワイアンフラ
「pipioフラシスターズ」
- ★19:25～ 空手演武
「滴水會館」
- ★19:50～ 小さな打ち上げ花火大会
- ★20:05～ うらじゃ演舞
「鬼々よろしく魁望蓮」
「俄嘉屋」

出店(予定)

- ★フライドポテト
- ★コンドルのパン
- ★焼きそば
- ★あげたこやき
- ★フランクフルト
- ★やきとり
- ★わたがし
- ★フルーツポンチ
- ★かきごおり
- ★ジュース
- ★くじ引き
- ★射的
- ★ゲーム
- ★千本つり
- ★ヨーヨーつり



時間: 18:30～20:30

場所: 慈圭病院 ●リハビリガーデン ●芝生広場

【シリーズ発達障害③】

自閉スペクトラム症 ～前回からの続き～

ゆっくり、短く、具体的に

自閉スペクトラム症の人たちは独特のやり方で、この世界を見て、聞き、感じているといわれています。そうした認知特性からくる、自閉スペクトラム症の人たちの困り感や、周囲からのサポートがどのように必要かについて述べたいと思います。

一般的に自閉スペクトラム症の人たちは、文字や絵など、目からの情報を理解することは得意ですが、耳からの情報を理解することは苦手と言われます。語彙が豊富であっても、含みのある言い方、もののたとえ、皮肉、暗黙の了解、相手の気持ちを推し量ることなどは苦手です。率直さ、純粋さといった良い面もありますが、対人関係の中で、場にそぐわない発言がみられることや、一見うまくふるまっているように見えても、わからなさや、内面に不安や違和感を抱えていることもあります。また、自分の気持ちや考えを他人に伝えることが苦手なため、そうした困り感は周囲に伝わりにくく誤解されやすい面があります。それは力不足からくるもので、そのため、コミュニケーションをとる際には、ゆっくり、短く、具体的にわかりやすく伝える工夫や、じっくり話を聞く姿勢を持つことが大切といえます。

また、さまざまな情報をまとめて理解する力の弱さがあり、全体をつかむより、細かいことに目が向きます。一つの事柄に没頭しやすく、極めるタイプとも言えますが、状況理解の苦手さにもつながり、そうしたことから、指示されていること、求められているルールに気が付かず、従えない場面、今までの経験がうまく生かしきれない場面がしばしばみられます。場面理解に関しても周囲の工夫が必要で、情報をわかりやすく、文字や流れ図などで提示することや、見本を実際に見せること、過去と現在といった時間的な流れや、物事のつながりをつけるアドバイスなどが考えられます。先の見通しをつけて段取りを組むこと、スケジュールの変更にも柔軟に対応することが苦手なため、優先順位をつけ順序立てるアドバイスや指導、あらかじめスケジュールは伝えておくことも大切です。

自閉スペクトラム症の特性理解のある環境は、本人たちの、安心感や自信になり、自分の苦しさ、不得意さを受け入れるといった、自己理解が進むことや、周囲の人へ相談する力や助けを求める力につながるのではないかと考えられます。



外来担当医師

平成30年7月1日現在

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
再 診	堀井 茂男	石津 秀樹	堀井 茂男	武田 俊彦	岡 沢郎	定期の診察は ありません
	安東 裕摩	難波 多鶴子	山内 裕子	松下 貴紀	鷲田 健二	
		武田 俊彦	吉村 優作	石津 秀樹	蜂谷 知彦	
		赤穂 千尋		北野 絵莉子		
初診外来	田中 増郎	森 秀徳	原 正吾	渡部 一予	寺田 整司	
	渡部 一予	竹之下 慎太郎	薬師寺 晋	蜂谷 知彦	井尾 祐子	
	松下 貴紀	木谷 玲	井尾 祐子	黒田 志保	井上 蓉子	
			白形 鷹博	山本 和明	本多 隆宗	
			宗近 明由香	和辻 大樹	武田 俊彦 (完全予約制)	
予約 専門外来 (午後)	(ペインクリニック) 石津 友子	(アルコール) 堀井 茂男	(もの忘れ) 石津 秀樹 池田 智香子	(青年期) 担当医	(アルコール) 堀井 茂男 吉村 優作 安東 裕摩	
			青木 省三 (完全予約制)	平岡 陽子		

● 診療時間 9:00～15:00

初診/受付時間 8:30～11:00

※事前にお電話での相談・予約もお受けしています。

● 専門外来 ・アルコール ・もの忘れ ・青年期

・ペインクリニック(疼痛) ・セカンドオピニオン

※事前にお問い合わせください。(予約制)

お問い合わせ番号 (086)262-1191 お問い合わせ時間 8:30～17:30

時間外・休日の急患対応いたします。お問い合わせください。

慈圭病院の理念

わが子でも安心して任すことのできる 精神科病院

創立以来、職員ひとりひとりが、患者さまとご家族の信頼にたる病院であるかを問い続けています。

五大基本原則

1. 慈愛の医療

ひとりひとりの患者さまに、慈愛と尊敬のこころをもって快適な医療を提供します。

2. 最先端の精神科医療

急性期医療からリハビリテーション、地域医療まで、良質で、最先端の精神科医療を実践します。

3. 最高水準の医療倫理

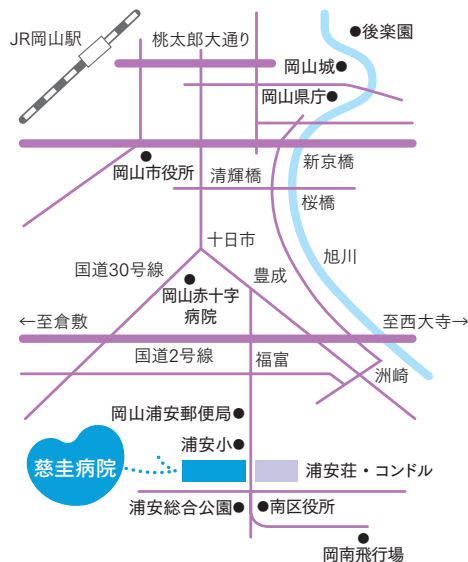
ヒューマニズムに根ざした至高の医療倫理を保ち、安全で安心、納得のいく医療を実行します。

4. 積極的な地域貢献

地域との連携を密接にし、精神科基幹病院としての役割をはたすとともに、こころの病の理解のための教育、啓発活動を積極的に行います。

5. チャレンジ精神

私たち病院スタッフは、常にチャレンジ精神を忘れず、和の力を結集し、さらなる挑戦、実践を行います。



ACCESS

JR岡山駅より南へ約8km(浦安総合公園近く)

● 車で 広島方面から 国道2号線「青江」で側道へ、「豊成」交差点を南へ約10分
大阪方面から 国道2号線「福富」で側道へ、「豊成」交差点を南へ約10分

● バスで 岡電バス JR岡山駅より「浦安体育館・岡南飛行場」に乗り、「慈圭病院」下車(岡山駅より約30分)

発行所/公益財団法人 慈圭会 慈圭病院 理事長・院長 堀井茂男

〒702-8508 岡山市南区浦安本町100-2 TEL 086-262-1191(代)

ホームページもご覧ください

<http://www.zikei.or.jp>

モバイル端末からアクセスするなら



ZIKEI